
活動の概要

前半では学内でのシステム委員会やオープンハウスの関連を中心に活動し、後半では、外部組織との連携や発表を中心とした研究等の活動を行った。本年度も夏に部屋の一部引越しなどを実施したが、本学の校舎の耐震などの問題のため、今後学内での引越等がたびたび実施されることが予想される。

学内での活動

1 システム委員会

学内ネットワークや、LMS、グループウェアに関する管理、業者等との定例会などに関わった。また、IAMAS 2012(卒展、期間 2/16~2/19)のネットワーク環境についてソフトピアジャパンの職員・学生らと共に担当した。

2 オープンハウス実行委員会

7/30~7/31 に実施した IAMAS オープンハウスの実行委員として実施までのスケジュールの管理の他、様々な情報の取りまとめ、サイン計画等の検討や次年度以降への改善提案などを学生委員会へ報告した。

3 研究委員会

外部資金獲得のための FD(Faculty Development)開催 (9/29 実施) に関わる担当者として計画・実施を行った。また、学内紀要における、論文の査読規定の見直しや、査読者の内規について検討した。来年度についても引き続き検討をする予定である。

4 IAMAS 紀要の執筆

IAMAS 紀要に、これまで導入から関わってきたグループウェアの利用状況の変遷、どのように活用促進を行なったかなどについて報告をした。[3]

タイトル：「小規模大学における学内情報共有に関する取組みについて」

5 学内の教室等一時引越し

夏休みの期間を利用し、1 年生の活動拠点であるロフト B を新校舎 1F ギャラリーへ移すことになり、引越しにかかる管理を担当した。また、2 年生の移動先である新校舎 2 階の貸出機材室の備品の移動計画に関わり引越しを実施した。

学内外での活動

1 ミズノテクニクス（株）との連携

スポーツメーカー、ミズノが扱う商品の生産工程の自動化、効率化などについて検討している。現在は、本学 小林孝浩先生とともに生産ラインを見学し、研究者の視点からアドバイスするなどの役割で参加している。今年度は最初の試作機が完成した。来年度もさらなる検討を実施している。おおよそ月一回のペースで開催している。

2 タック（株）との連携

IT系の機器（主に医療系の機器）を扱うタック（株）との共同プロジェクトに参加した。今年度は医療・健康・社会ということを中心としたスマートハウスを目指し、人間の生活環境向上ということを念頭においたITの連携やあり方について定期的に打ち合わせをした。来年度以降は、学内のプロジェクト（代表：関口先生）として実施する予定であるが、内容により岐阜県生活技術研究所、（株）イー・アンド・デイとの共同プロジェクトに発展する可能性もある。

3 障がい者の生活支援・障がい児教育等への利活用を目指す研究会（座長）

iPadを障がい者のQoL向上を目指した研究会を本学と共に、日本福祉大学の先生、バーチャルメディア工房ぎふ、情報技術研究所、ソフトピアジャパンのメンバーで10月以降、月に一度のペースで開催した。研究会で扱う対象は、iPadのアプリ（や関連したハードウェアも含む）などの情報共有サイトの提案と、ECS（環境制御装置）としてのリモコン制御アプリ活用と検討の2点に絞った。この内容は次年度以降も引き続き実施する予定である。



図1 研究会の様子

4 電子情報通信学会 福祉情報工学研究会にて発表

上の障がい者の生活支援・障がい児教育等への利活用を目指す研究会で対象としている2点のうち、iPadのアプリや関連したハードウェアなどの情報共有サイトの提案について発表した[1]。
タイトル：「障がい者間での電子機器等の利用促進を目的とした情報共有・支援に関する取組み」
日時：2012年1月28日
場所：名古屋工業大学（名古屋市昭和区御器所町）

5 Moodle Moot で発表

三重大学で行われた Moodle Moot Japan 2012 in Mie（開催 2/22～23）にて本学でのLMSを利用したeガイダンスや中間発表での利用事例について発表した。中間発表等での事例では、文字という媒体で学生へアドバイスなどを残すことの効用などについて触れ、発表会場で意義について共有することができた。

タイトル：「修士研究中間発表等での導入事例について」発表は2/22に口頭発表のみ [2]

6 感性情報に関する研究（共同研究）

名古屋工業大学 中村先生、中京大学 加納先生らと共にロボットにおける感情をどのように捉えるか、また人の心理状態を推定するなど、ロボットと人間が共生するためのキーとなる感性情報を扱う手法についての共同研究を行った。[4][5][6][7][8][9]

学外での教育活動

1 岐阜高校での情報に関する特別講義

同校の生徒が 3/25 に行われる予定の科学オリンピックに参加予定なため、その情報分野の対策として情報Cをベースとした内容の特別講義を実施した。内容は、情報の基礎的なところからネットワークに至る幅広い内容とし、後半は実際に PC を利用しながらの演習スタイルで行えるような講義を目指した。



図 2 特別講義の様子

発表論文など

- [1] 山田晃嗣、山本格生、篠田義人、渡辺崇史、太田秀昭、木寺秀洋、藤井勝敏、「障がい者間での電子機器等の利用促進を目的とした情報共有・支援に関する取組み」、信学技報、WIT2011-68、pp92-96, Jan. 2012
- [2] 山田晃嗣、小林孝浩、「修士研究中間発表等での導入事例について」Moodle Moot Japan 2012 in Mie にて口頭発表 Feb. 2012
- [3] 山田晃嗣、「小規模大学における学内情報共有に関する取組みについて」、情報科学芸術大学院大学紀要、vol. 3, 2011
- [4] 市野早徒、中村剛士、加納政芳、山田晃嗣：参照事例に基づく適応的非写実的画像変換，第 32 回東海ファジィ研究会，pp.11-16, 2012.
- [5] 牧義人，中村剛士，加納政芳，山田晃嗣，佐野玄磨，小橋祐介：人間共生型ロボットのための心理状態推定手法の提案，第 32 回東海ファジィ研究会，pp.61-66, 2012.
- [6] 小橋祐介，牧義人，佐野玄磨，中村剛士，山田晃嗣，加納政芳：人間の集団が持つ雰囲気表現するモーションメディアとしてのロボット動作，第 32 回東海ファジィ研究会，pp.161-164, 2012.
- [7] 山田龍正，加納政芳，中村剛士，山田晃嗣：ロボット見守りサービスに向けた画像処理フィルタの検討，第 32 回東海ファジィ研究会，pp.201-204, 2012.
- [8] 小橋祐介，佐野玄磨，牧義人，中村剛士，加納政芳，山田晃嗣：集団の持つ雰囲気知覚とロボットによるジェスチャ表現，ヒューマンエージェントインタラクションシンポジウム，2011.
- [9] Takashi Nishiyama, Hayato Ichino, Tsuyoshi Nakamura, Masayoshi Kanoh and Koji Yamada: Impressionist-Painterly Style Transfer Based on Texture Localization, ACM SIGGRAPH Conference and Exhibition on Computer Graphics and Interactive Techniques in Asia (SIGGRAPH ASIA), Poster, in DVD-ROM, Hong Kong, December 12-15, 2011.